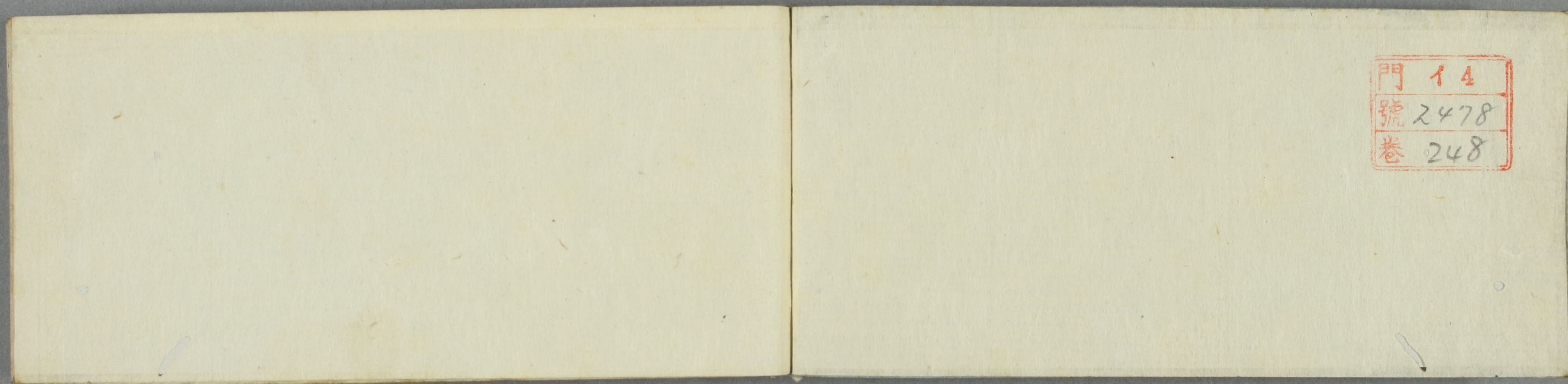
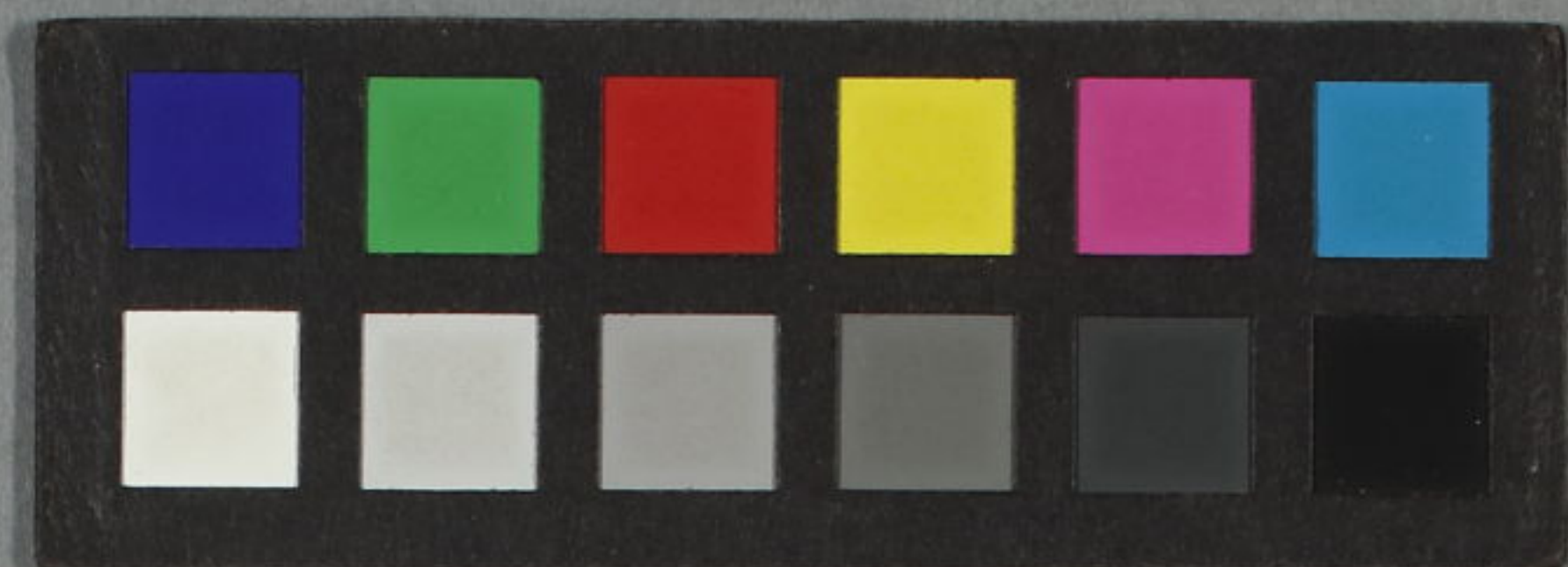


イ	四
2478	
248	





門 14
號 2478
卷 248



イセノカミ

石井伊勢守



一兩日者雨疎遠打

スキ シカバシヨウコラ

五中ハ物々四書誦

シヤヨリコバシニヤ

譯自今勉連夜相

ツトシ シセキナ丸

勤中ハ雨出席の事

ダク

朱子以上

九月廿七日

六角弓為

口キツモノ シイカハイテン

魚橋之詩歌拜見

ニシテ

仕の全

ソニエニシシ

エニシ

尊圓親王之御真

サキ ウサギキカク ヒコク

跡無疑折角法福花

ナカ多キヨクキニテニ

の心恐謹言

分ラ分

羽倉泰之丞

ハイソワヤシキ エヒキウツ

拜領屋敷引移

ソラソラノフルニテ

付之鹿相之振舞

アイモヨラン ナカ シロラ

お催有百千の勅勞

コラガ

明末刻の光耀

の心の上

錦織二万次郎

ニヤハシキキ エニ アリコレ

似合愛馬録有之

コニシ トリム

近之婚姻取結

ダシノギ タニカニシ

由一政之儀をお

サグク ハシヨラタニサアシ

明之御用を

おこし

小春初五

ホラソフ

保科共芳素

林イドモキテヨリクマ

傍輩共近く従國

アホリ アタキヨボラヨシキ

許登り隆眺望豆

サキキ カリラキシクモラ

座敷係借置の所ハ

ナラソシキヨコアアキ

尚其砌自是案内可

キヨク

ノ入ル

ハイキ

別所平之進

ハシドノジヨキハニクニマ

邊出に住居茶端不

シユ

牛由てりて付の後サ日

ウキ ソセツ

新宅引移りて居

ウジ 出ハ タクニ

諸事活世話も多

フミン

おこし

東儀土佐守

トリヨラ コミノヨシヨシ

鳥獵は好く由承及

キ 六三

おこしおこしおこし

手書 三ツ多ノ金八二

朝より出立禁邊

ドツニ 多

紅糸白付下度

シラ

そ

軒千ノノ

外山土岐之助度

富小路舎人度

ケカマス 千多ノ

近康知足

ケカゴ 帽子 下モ

近頃中并其得昔

吸物碗貳拾人前席

カシタサレ 日

借被下其極有彩上其

言千ニ

雨承知て此者お渡

のし

力丸林藏

ワソ和ニトリテアリス

利息銀取立相済

ニヨラモニカキア

以證文書改之上先

ホニシテ ツラ多ノギ

新主通達儀

瓦

瓦

世貞名沿津

奴佐より宿次之飛

サニヤクノニキリ方ニキリキツ

脚着着之御併用事

カキ多コギ アンド

遣母之儀は安堵察

イリソツ

アリク

アリク

霜月廿一日

ルニヤルニモ

流砂類おあ

全ス

為主平用向手代共

フキ シイヤニシロ

中附置れ身代物

フテイ ハ トリカ

拂底し御手取取

新アキ已上

ヲカタ

諸方尾張介

ヲラニラヨ コラス多サニサニ

真州が紅花澤山差

ルソ 参立日

能く申れり代務

ウリサキ ツラリ

賣捌り様仕度

カク

渡邊和太夫

破籠中竹筒口刷塗

直中度より方布堅地

直中度より方布堅地

蟬色活掛随分立入

此本より頼入りや

高島尾勘花

仮り家屋根葺同替付

楢皮并釘針並代

手習共一式兼付の在

美名越りや

か加るや赤あきつ房

茶や与右馬つ

笠撥二葉月より長崎

表に紙のひめ紙銀金

高尾借仕度より紙

芽生屋要助振

丹波や多入

田畑何手是上作之

場所此度拵 出

華と法尋 一 法

お下り

但馬屋大之助様

連阿弥禮藏

例年之通金比羅傳

お節下度、冬様下

ほ勅勞正四ツ時より

作合所々席より

園邊十合

足下山陰之由整居日

このお慰高情と世在

之身入美敷おん

二月朔日

鶴澤九十九

為追悼於法甚提所

連歌興行可仕候

系中世之狀產出

願可上之者

根岸念藏

年来之御願望今

度頃存之意之通被

仰出れ方偏忠勤令然

仰出れ方偏忠勤令然

更之段之儀好れ

永升南兵

何之奔走之民也

共仰之也上棟之祝事

共仰之也上棟之祝事

相企れ百長光駕所抑

其已上

二月十六日

樂口羅三

漢

洛陽之隱士此際出京

而終之講釋堪感

乃吉又共之居座小何休

あつたう純きあつた

村岡連

雖無心之所望に今日

賓客ありしに雪舟

に金屏風貳雙并蹴

鞆皆具預恩借度也

碓井右源右

宇治平等院之舊蹟

喜撰山獄ありと見堂

喜撰山獄ありと見堂

新おらや

身之提重示相推

以居業新ありや

宇津城轉殿

石堂伊勢守

異風成茶入求中

袋可中付大内相安

樂茶存也。宣金襴

先為其來其言調

申慶其

野宮能登

彼顧由辰幸之勤勞

累年之未進其官也

之由誠仁厚之臣事

難有寺好

受官織部

御下屋敷築山泉

水衣衣冷情子由謀

之雪丹花之天邊照

其踐平文法浦山後

忍之謹言

楠之米之入

愚意之辨論能忍

入其暫之重蒙之階

榜耳賦三章中
三力サハル

八代矢柄

約束一其為持進

ハ對顔之

華且之抽

以身中尤

前川復作

運自是之

交之

屬其

畏悦

兼房賢

實應乃其味尋同辱

其性日之擢其畏

悅之至其於方

兼房醫益

苗百之魏中其通銀

才江社你付御用銀

之儀當身中調直

有之其探以中其持

上承五孫濟國符
中承其方當受之
當其統率也

深尾福高門

武藝之終身唯金身

之軍之任物也

連海舟之為之雨方

象大德云之悲情

策之儀子也

福永復藏殿

久我幸在處

今般宜以樞機令出

躬不令早速勘定

後被任被規摸

事共致方安其悲惶

謹言

江馬世本治

遠路而使殊名物之

一器拜領實是非類之

賞豈不知所謝之

勅使河原的造

田舎古越之由古来。

此等物原乃仍古来

之来物也後子進付

取上都車待其恐之

足助甘利定其青

龍蘇川馬走

原上都を待り忍ぶ

足助甘利穴生

青龍峯川迄立

案文の通事貞殿侍

存念相叶れ哉

意を以て清書書上

片指心のかん進白

法沙法名くくや

鶴鶴左衛門大尉

先達る所囑る書

邸連山所用之術

屏風堂之雙京都

細見之圖云何付れ

際以如少し連可也

之也

私市金吾

近く上使御上京之由

御行列致拜見度

其節志自是法案内

のり上之也

衣掛競敷

多削鞞負

遊興酒宴にお暮る

至士介る者お懐事

以信賢之主用不闕

模心掛のし又行要

こあれふ重

和布刈夫婦

麩類取好物富承に

風味無覚未孔る也

手打蕎麦同麦取振舞

中皮取手透るる味来

駕のらつ採幸御松

満王野造酒

冥加羽叶今度御代

官役共家仰所加増拜

領任難有次長幸採

恐惶謹言

七五三申 藝

蹴鞠之御會有之に付

下官儀師人數を召かけ

て賢大受仕に何様御座

限る義席の仕に上

下間自然殿

荏嶋江漏

衣紋御枕方古

度段致し承る近

高倉家御會日

雨吹攀のりれ

廣橋肥後守

飛札拜見仕

馬通あゝ姫百合撫

杜若鉄仙夏葉馬取

揃預馬惠授徒然

打弁ある致

ふ

毛利物集女

勝、あまふもあつた

凌、あつたあまふもあつた

物、あつたあまふもあつた

あつたあまふもあつた

あつたあまふもあつた

帝、あまふもあつた

瀬尾清大先

日外、あまふもあつた

釣舟馬、あまふもあつた

あつたあまふもあつた

蟹、あまふもあつた

あつたあまふもあつた

鈴木壽賀藏

姿、あまふもあつた

あつたあまふもあつた

升羽又下官金浪美

上飛越五彼地亦云

之御用度五々可承

如云

四月廿一日

鳳律驚鳥秋氣

龍梭靜夜機

夫と生の縁平あおね

此原之及打もくも

霞のりりけり

奉
二星

明月清風夜

舟心と心及樓

明月るる手心

紅葉赤青苔地

其年十月廿

山ありて清き

閑房来清風

風清露白雪輯集

月淡星明玉佩揺

天原婦和梨左けふ

を七支の月一にやう

にきりて多き初たる

君尔先慎乎徳

月繁くるほはん

養心莫善於読書

堂系少小書

丙申歳元且

堯庭正講三朝禮

漢殿空稱萬壽

觴のみ有た川

此如千加し守る

阿比加為して討

しけ多おも

奉 歳徳神

百子池平龍舸穂

三神山遠鳳書書遅

いにかし

又うれの復ゆるる何

まは河使多ち也

みらむ

奉 二星

徳新方村八

己回寅

婦る言に穴八喜

もみえ祓とと休

乃ととあす考す時

丁酉試筆

奉 歳徳神

乳方兄有絕交書

有什一之免從

夜舟如函人

一笑千山去月

隔巷遙停幃非復

為來蓬

淺木是渡河時

奉
二星

昭陽策策閑試毫

雲霞段出海曙梅柳

度江書

奉
歲德神

川流山峙林樾

龍浪江翻石乞

兩順風調

白

上章困敦春林

中花錦時開落

天外遊絲或有

無。不交のお月也

ふいふふあやう

ふいふふあやう

良し事

奉 歲徳神

風翻白浪茶下片

鳥點青天字一行

龍停曉洞雲猶濕

霧過清山一水

花塢題待香墨筆

月庭彈更冷侵絃

山頭夜戴孤輪月

洞上朝噴一片雲

吾不厭身予不來

鳥獸不可與同群
茶烟一榻擁書眠
茶烟一榻擁書眠

風拂大夫笈

雲棲屋上竹

難波江也西之夕

此浦風可待之也

けく并梅乃物也

揚袂揖飛仙

函女一也

花前一榻酒

君子

君子學道則壽

人之奉二星

風從昨夜聲

怒露及明朝淚

不禁

三の二とてなす

ふりてはれもま

ふりてはれもま

婦ふてはれに

又々このふん

山ありはる

そりてはれ

落筆 驚馬風





